

## 7月度土曜例会 (2016/07/16)

本日のスピーカーは大阪大学大学院文学研究科特任助教 **Mohammad Moinudin** さん、お国はインド、8年前来日。大阪大学で Ph.D.取得しました。大阪ムスリム留学生協会 (O.M.A.)での元アドバイザー、自身の研究などで多忙の毎日です。さてタイトルは **Transformation of Japanese Literature after the Meiji Ishin.** えっ！なんでインドの方が日本文学を？どのような作家と作品の名前が出てくるのだろう、興味津々です。

日本語は堪能とのことですが、彼の論文を探して読んでみるととてもとても難しすぎて付いていけそうにはありません。

では早速本日の内容の概略をたどってみましょう。

日本の近代化は明治維新に始まり、最初に忘れられないのが福沢諭吉です。彼は日本のみならずインドにも大きな影響を与えたそう。と言うのはインドが二つの政府に割れた折、それぞれの代表二人が日本の教育制度について研究のため来日、内の一人は福沢諭吉に大いに感化されたそうです。内容は脱亜入欧！当時アジア諸国は揃って弱国、欧米に蹂躪されっぱなしでしたから。

ところでプレモダン日本文学とは？

中世の詩歌、文章は仏教色がとても強かった。また江戸後期のそれはコミカルで風刺が効いていた。共にそれらは一般大衆を意識したものではなく武士、貴族など特別なセクション向きであった。方丈記、徒然草、今昔物語集等。

以降は維新後の文学史です。

明治維新以後、翻訳文学が多かった。

坪内逍遙が文芸評論『小説神髓』を発表した。

二葉亭四迷は日本の最初の近代小説と言われる『浮雲』を発表した。(言文一致文体で書かれた) エミール・ゾラ、モーパッサン、トルストイなどが紹介された。

**Romanticism, Realism, Naturalism** などが紹介され、尾崎紅葉、幸田露伴、島崎藤村、田山花袋が続いた。

**Naturalism** は、島崎藤村『破戒』や田山花袋『布団』らに代表され、私小説の始めとされる。

1905-20 年が **Golden Period of Modern Japanese Literature** と呼ばれる。

この時期は、夏目漱石や森鷗外らの **anti-Naturalism** の人々が活躍した。

夏目漱石の生い立ちからイギリス留学、東大での教鞭を取るも、朝日新聞に入社して文学の道で生きる決意までを紹介。『吾輩は猫である』『こころ』『それから』『門』『坊ちゃん』などを発表。

白樺派の人々が写実主義の文学を発表し、人道主義・個人主義の見方を提案した。

(Freedom of Expression が彼らのフィロソフィー)

志賀直哉、武者小路実篤、有島武郎、里見弴ら。

ヨーロッパの芸術を紹介し、バーナード・リーチやロダンの作品を紹介



介。また、Max Klinger や Arnold Böcklin とも紹介した。

Tanbi-ha and Aesthetic group	
The European Aesthetic School	The Japanese Tanbi-ha Group
➢ A fine arts Salon with the name of PAN (A Greek Deity) was established.	➢ A fine arts Salon named after PAN was established
➢ The capital city Paris was chosen as a center of activity.	➢ The capital city Tokyo was chosen as a center place.
➢ A restaurant on the bank of River Seine was chosen for regular monthly meeting.	➢ A restaurant on the bank of River Sumida was chosen for regular monthly meeting.

美 (Beauty) を追求する耽美派もこの頃文壇を賑わした。

Bad や Good あるいは Moral や Immoral を重視せず、美を探求する。

森鷗外、永井荷風、谷崎純一郎などが活躍し、「スバル」「三田文学」を中心に活動した。

同時代、「PAN の会」が結成され、セーヌ川に見立てて、隅田川近くにサロンが生まれた。

「スバル」は 1909-1913 年まで 60 巻が刊行された。

「三田文学」は 1910 年創刊され、7 回

休刊したが現在も続く。

私小説とは？

実体験が素材であり、ありのままを正直に伝えるという考え方。個人を全てあらわにする体験談。

志賀直哉『和解』、が代表とされる。

散文詩、小品も書かれたのがこの時期であり、これらは全て日本文学のユニークな特性である。

Watakushi Shousetsu or Shi Shousetsu (私小説): I-novel genre
➢ "Since the adoption of I-novel genre in Modern Japanese Literature, the writers who did not write any I-novel, in other words who did not use the material closest to their self, or did not feel the need of incorporating their self, or did not write any novel following the sentimental method not against the existing self, were only three: <i>Sōseki, Rohan</i> and <i>Kyōka</i> . (Terada Touru)
➢ Tayama Katai is regarded as a writer who wrote the first I-novel (i.e. <i>Futon</i> , 1907)

下記の詩は Mohammad さんの作品です。

## An Example of Sanbunshi

偉いて何？ (Winner of Ibaraki-Shi Human Rights Award - 2011)

あらゆる生物の中で一番偉いと人間は自惚れる。  
が、その人間同士で、数え切れないほど差別しあう。  
他者の存在を我慢できずに、ただ自分が一番偉いと自惚れる。

動物や植物だって生物だ。  
人間よりもいろんな種類があって、同じ自然の中に暮らし、そして喧嘩し争い合う。  
彼らは自分の人生のため、他を殺すことさえある。けれども、差別はしない。

人間は相手を殺さなくても差別する。  
同じ人間であるのに、話すことさえ嫌がったりする。  
それなのに、自分が一番偉いと自惚れてばかりいる。

偉さを決める基準は、いったい何なのだろう。  
差別することなのか、差別なしの生活をする事なのか。  
差別することが偉さの基準なら、私は偉くはなりたくない。

動物や植物になっても構わない。  
争いがあっても差別はされない、差別なしの人生を味わえる、  
そんな世の中を、私は作りたい。  
モハンマド・モインウッディン (文学博士)<sup>1</sup>

## Q&A

- 先ほどのあなたの詩に感銘を受けましたがこれは？  
ああ、これは茨木市市民センターの人権に関するあるコンペの時書きました。差別に関するテーマでしたからこのようなものを書きました。
- 日本語は難しいのにどうやってそのハンデを乗り越えたのですか？また一番好きな作家は？  
読み書きは確かに難しいですが辞書もありますし。辞書を使ってそれはできるが、作品を分析するために言葉だけではなく文化も理解しなければならないと思います、簡単ではありません。それよりも文学に対する好奇心の方が優っていたからでしょう。作品は志賀直哉の城崎にてでしょうか、夏目漱石も外せません。
- 吾輩は猫である、の吾輩という言葉外国人には分かりづらいのでは？そうですね、全て一般の人であれば、直訳は理解できないと思いますので、翻訳はIですませているのですが。
- 日本文学の明治維新前後の変化と同じような現象はインドにもありましたか？いいえ。でも独立前後のインドの文学者 RK.Narayan がドナルドキーンを経て日本の川端康成に会った事があります。また独立前にジャパントイムスを読んでいたインド人ライターもいたし、インドストーリーを日本に紹介した者もいました。
- なぜ日本文学に興味を持ったのですか？高卒後日本語科に進みました。仕事を得られやすかったからです。その折吾輩は猫であるを目にしましたが全然分からなかったけれど惹かれました。奈良女子大にいた先生のご指導で志賀直哉の和解に取り組み論文完成。その後就職するもすぐに日本の文科省奨学生として来日、今日に至ります。
- インド文学の巨匠タゴールのお孫さんが追手門大学で同じ文学の教授とのことですがご存知ですか？個人的な面識はありませんが業績は存じ上げています。日本人女性と結婚され今はもうリタイアされています。タゴールはインドにおける日本語センターの先鞭者で、インドの国家作詞作曲したノーベル賞受賞者です。
- インドで日本文学はポピュラーですか？  
なんと俳句が盛んです。英語では表現しにくい点ヒンディー語では575がぴたりとハマるのです。阪大でヒンディー語を教えていたドクター・ヤスミン・スルタナ・ナカウィー先生はヒンディー語で俳句を百数十点読んでいます。
- 源氏物語は？  
インド政府が世界の有名作品をインドの各言語に翻訳しようとしてしました。日本から『源氏物語』を選び、ヒンディー語やウルドゥー語に翻訳されたのです。翻訳はほとんど英語版からされています。
- 俳句には季語がある、日本には四季がある、インドは常夏では？  
インドにだって四季はありますよ。インドの言葉で書かれる俳句にもそれはみられる。特に、ヤスミン・スルタナ・ナカウィー先生のヒンディー語の俳句を見れば、それが明らかにみられます。

Thanks for your presentation. I'm interested in literature so much. And I was really into 夏目漱石 and read almost all his works when I was a student. As for 「我輩は猫である」、I heard an inside story. It was appeared in 「ほととぎす」run by 正岡子規. Original plan was that 「我輩は猫である」was complete-in-one-issue. (chapter 1) However 「我輩は猫である」became very popular among people, and 夏目漱石 wrote on and on. So eventually it became a long story. There's another inside story. As for the first chapter 正岡子規 urged 夏目漱石 some rewritings. As a result, the written style became sophisticated. but 夏目漱石 didn't like 正岡子規's suggestion. So 夏目漱石 wrote the story as he liked from chapter 2. And the story attracted readers more and more. (M 記)

事前にスピーカーからは下記テーマの内どちらがよろしいでしょうかとの打診がありました。

1. "Transformation of Japanese Literature after Meiji Ishin"

2, "Why Muslims are so particular about food as Halal or Haram"

役員会で喧々諤々の末、僅差で本日のタイトルをお願いする事になったこと申し添えます。またすぐ次のスピーチお願いしたいですね。